

がん ってどんな病気？

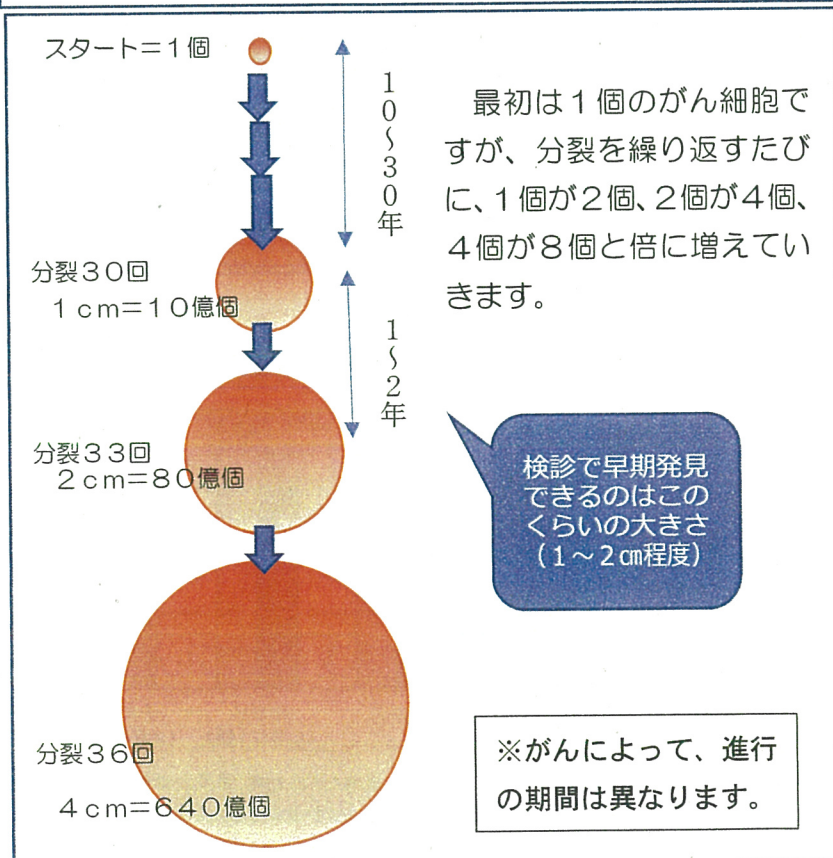
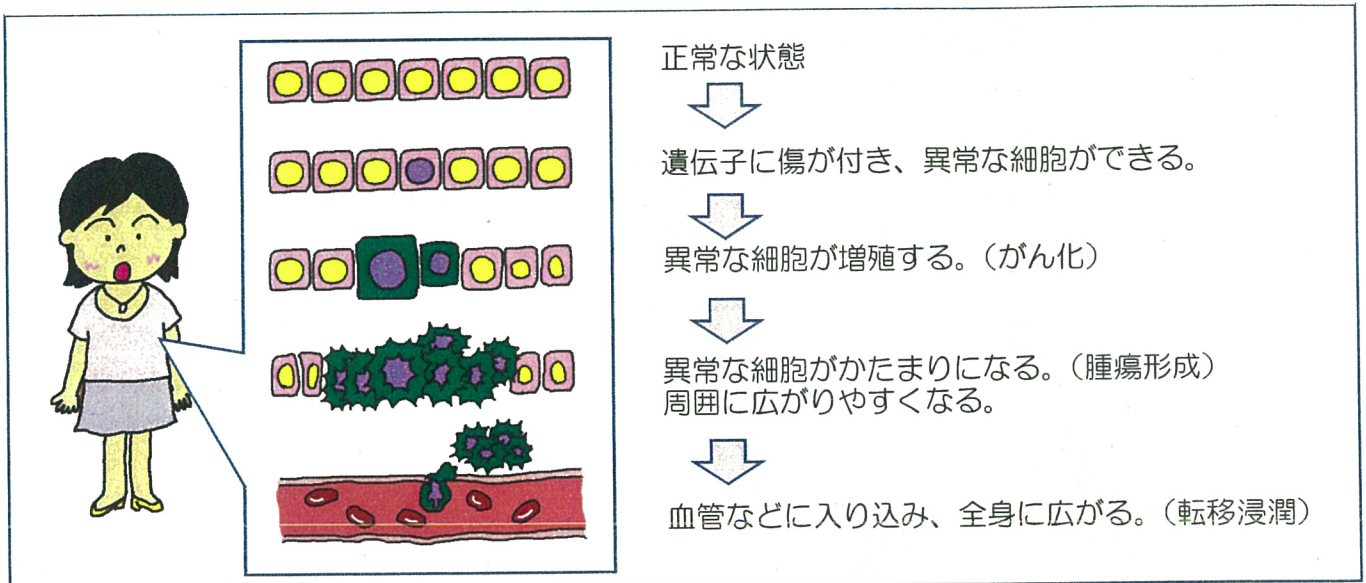
がん細胞とは

がんは普通の細胞が「がん細胞」に変わり、増え続けたものです。通常の細胞には寿命がありますが、がん細胞の一部には死ににくい細胞があって増え続けるとされていて、臓器を侵したり、他の臓器に転移するなどしていきます。そのため、治療をしないと、がんが進行し、死に至ることがあります。

がん細胞はどうやって増えるの？

がん細胞ができる原因は、普通の細胞が細胞分裂の際にコピーミスを起こすことです。

コピーミスの最大の要因は老化で、高齢になるほどがんになりやすいのですが、たばこや偏った食事などの生活習慣もコピーミスを起こしやすくなります。



がんは早い段階では、体に症状が出ないことがほとんどです。たとえば、乳がんではたった1つの細胞が1 cmのがんになるのに10年〜30年という年月がかかります。しかし、1 cmのがんが2 cmになるには、1年半しかかかりません。早期がんを発見できる期間はとても短い(1〜2年)ので、タイミングを逃さないよう、定期的ながん検診を受けることが必要です。